

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

人間形成コース／伴 恒信

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

報告者の専門とする「教育社会学」という学問は、教育現実を研究対象としながらも、教育諸現象の基底にある問題の本質を解き明かし、大所高所からの課題解決の方向性を指し示すことにその学問の特質がある。さらに、本学赴任前には国連の専門機関たるユネスコに勤務していたこともあり、国際的な教育動向の調査とユネスコの提唱した「生涯教育」概念の振興普及に貢献してきた。今、わが国が中心となって提案されたESD(持続発展教育)が「国連ESDの10年」として決議され、ユネスコおよび世界各国のユネスコスクールがESDを先導的に実践する拠点に指定されている。ESDはまた、本年度より施行される新学習指導要領にも明記されている国家的事業でもある。平成22年度からユネスコスクール大学支援ネットワークに加盟した本学が、文部科学省の委嘱を受けて四国での普及支援活動を展開していくためにも授業その他の機会を通じて広く学生に啓蒙周知させ、実践的な協力体制を構築していきたい。

## 2. 点検・評価

平成22年度からユネスコスクール大学支援ネットワークに加盟した本学が、平成23年度からは文部科学省の委嘱を受けて本格的な事業実施に移り、平成23年8月24日に徳島市中央公民館でユネスコスクールフォーラム、9月23日には藍住町の小学生を引き連れての「遍路ウォーク」、11月5日には本学でユネスコスクール研修会を実施した。これら全ての事業活動に報告者の指導学生が積極的に関わり、現代の教育が目指すべきESDの理念と方向性を理解して実地に移す教育実践力を身に付けることができた。もちろん、報告者も学部・大学院の授業を通じてESDおよびユネスコスクールについて啓蒙をはかるだけでなく、免許更新講習会、藍住町教育委員会校長会、徳島ユネスコ協会総会などの場を通して広く講義・講演を行った。こうした1年間にわたる教育支援活動を展開する中で、ESD・ユネスコスクールに自ら実践的に関与し、研究にもつなげていこうとする意欲的な学生も増加し、学生達の支援の熱意や意向も伝わって実際に藍住町の全4小学校が平成24年2月にはユネスコスクールへの加盟申請をするに至った。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

これまでボランティア・ティーチャーや遍路歩きプロジェクト等で関係を築き上げてきた藍住町の教育委員会や学校に対し、上述のESDに関心を持って取り組んで行きたいと希望する指導学生達を派遣し、教育実践と実践的な研究の資質向上の機会を提供する。学生達がこうした教育現場での実践経験を持つことは、学生自身の力量形成に大いに役立ち、ここ数年間、京都府、横浜市、宮崎県、徳島県、大阪府などの教員採用試験に現役合格者を輩出することにもつながっている。

## 2. 点検・評価

I-1で先述の如く、従来からの藍住町教育委員会および学校との協力連携に加えて、さらに平成23年度からのESD・ユネスコスクール支援事業の実施により、指導学生を中心に現場の実情を踏まえ期待にも応えていける力量をつけてきたようである。このことは、藍住町教育委員会教育長および各学校の校長先生等から指導学生の貢献に対する感謝の声として当方にも届けられている。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

日本子ども社会学会共同研究研究代表者として平成22年度に実施した「子どものセルフ・エスティームに関する日中韓国際比較調査研究」を学会で発表するとともに、研究成果を公表する。

また、申請中の科学研究費補助金が交付されれば、欧米諸国の道徳的シティズンシップ育成のための教育施策組織に関する調査に着手する予定である。同科研が認められなくても、別途機会を捉まえて調査研究を実施していきたい。

## 2. 点検・評価

日本子ども社会学会共同研究研究代表者として平成22年度に実施した「子どものセルフ・エスティームに関する日中韓国際比較調査研究」を、平成23年7月の同学会で発表し責務を全うしただけでなく、さらにデータの子細な多変量解析と検討を重ねて、平成23年10月24-28日に中国南京市の南京国際会議センターで開催された国際道徳教育学会において昭和女子大学の押谷由夫氏とともに英語での共同発表を行った。国際学会と並行して10月28日に南京師範大学で日中教育社会学研究者研究集会が開かれ、日本側を代表して1時間余の記念講演を行った。

上記申請中だった科学研究費が平成23-25年度3年間の研究課題「道徳的シティズンシップ育成のためのコミュニティ参画型教育の政策組織に関する研究」として認められ、平成23年度は10月にアメリカのカリフォルニア、11月にポーランドとイギリス、平成24年3月にアメリカのニュージャージー及びワシントンで、国際会議・大学研究機関での情報収集、教育関連組織や学校の訪問という形で現地調査に着手した。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

平成22年度より本学がユネスコスクール大学支援ネットワークに加盟しており、報告者が本学の担当者でもあることから、平成23年度は奈良教育大学を介した文部科学省からの委嘱事業を推進する責務がある。徳島県教育委員会や徳島ユネスコ協会の協力を得ながら、上記委嘱事業を成功裏に完遂する。

## 2. 点検・評価

先述の通り、平成23年度からは文部科学省の委嘱を受けて本学が実質的なESD・ユネスコスクール支援事業に参加する上で、近森教授とともに本学の担当責任者として事業の企画から実施運営に至るまで携わった。事業の実施に当たっては、藍住町教育委員会教育長や各学校長への事前説明や徳島ユネスコ協会総会でのレクチャー、学生動員のための諸指導など目に見えない報告者の数多くの下働きを経て、ようやく平成24年2月の藍住町全4小学校のユネスコスクール加盟申請手続き開始が実現することになり、文部科学省の委嘱を受けて事業に加わった本学の面目が果たせることになったのである。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

上述の本学でのユネスコスクール大学支援ネットワーク事業を実施するとともに、同事業推進のための文部科学省ならびに関係団体、教育委員会、学校等との連携強化に努める。

また、第4回日中教師教育学術研究集会の準備委員会成果物刊行班長として、プロシーディングスの刊行に当たる。さらに、北京師範大学との連携協力推進のために本学の外国人客員研究員として招聘する姜星海副教授との共同研究に従事する。

### 2. 点検・評価

上述のように、本学でのユネスコスクール大学支援ネットワーク事業の担当者として同事業推進のために文部科学省ならびにACCUなど関係団体、徳島県教育委員会、藍住町教育委員会、各学校等との実際の連携交渉に当たった。

また、平成22年度に本学で開催された第4回日中教師教育学術研究集会の準備委員会成果物刊行責任者として、実際にはほとんど一人で英文プロシーディングスの編集を行い、平成23年12月に北京師範大学教育学部副部長が来日した際には本学の刊行物として手交することができた。さらに、北京師範大学との連携協力推進のために本学の外国人客員研究員として姜星海副教授を招聘し、共同研究に従事した。

平成23年10月には徳島県と中国湖南省との交流親善団に鳴門教育大学を代表する形で参加し、湖南省大学および教育関係者との交流親善に寄与した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

繰り返し述べたように、本学は平成22年度からユネスコスクール大学支援ネットワークに加盟し、平成23年度には文部科学省の委嘱を受けて本格的にESD・ユネスコスクール支援事業に取り組んだ。報告者は、実施の細部については国際教員教育センターや指導院生の協力を仰ぎながら、平成23年度実施のユネスコスクールフォーラム、研修会、遍路ウォークの企画から文科省との交渉手配・運営まで担当した。その結果、これまで長年にわたって築いてきた藍住町教育委員会との連携協力関係のお陰もあって、平成24年2月には徳島県下で初めて藍住町の全4小学校がユネスコスクールへの加盟を申請し、本学としても文部科学省への面目を果たすことができた。また、北京師範大学との学術交流についても、平成23年7月から12月までジャン先生を本学の外国人客員研究員として招致するとともに、第4回日中教師教育学術研究集会の英文プロシーディングスを編集・刊行して実質的な研究交流の成果と将来への確実な足掛かりを残すことができたのである。